

1. ショウジョウバカマはシュロソウ科 (かつてはユリ科) に分類される。
2. 春の早い時期に可憐な赤紫～白色の花を咲かせる。
3. 林道や山道の脇、林床、山際の畔、標高の高いところでは草原や湿原など、比較的に見つけやすい。
4. 世界的には、8種類がサハリン、日本の北海道から沖縄、朝鮮半島、台湾に分布しており、日本に分布しているのは4種、そのうち近畿地方には2種類が分布しているらしい。
5. その2種類とは、ショウジョウバカマ①とシロバナショウジョウバカマ②である。

6. ショウジョウバカマ①の特徴

- i 分布領域は広い。花被片は赤紫、淡いピンク、濃い赤紫までの変異がある。
- ii 葯の色は濃い赤紫色または淡い黄色、花粉は淡い黄色。ただし花被片と葯の色の変異は多い。
- iii 葉は濃い緑色で厚く、全縁。ただし三谷の個体には葉が波打っているものも多い。
- iv 花が白色のものもあり、色だけだと②とまちがうこともあるので、他の特質も調べること。すなわち葯の色が赤紫だと②と区別できる。



葉が厚く、つやあり。全縁



緑が変色したものもある。



雄しべから花粉の出はじめ

7. シロバナショウジョウバカマ②の特徴

- i ②は近畿、中国、四国地方だけに見られる。
- ii 土壌の発達が見られない湿った場所を好む。
- iii 花被片の色は白色、葯も白色で花粉はふつう青紫色である。
- iv 花被片の付け根にある蜜腺は、①よりも高い位置にある。
- v 葉は色も厚さも①よりも薄く、縁は細かく波打っている。(鋸歯のないものもある。)
- vi ②は生育環境が限定されているので、①ほど見かける機会は多くない。
- vii 六甲山では②の集団を見ることができる。
- viii ②はどちらかと言えば小ぶり。



白花も黄色に変化する



葯は白い



葉に細かな鋸歯がある

8. ①と②の形態的な特徴は上述の通りだが、同定しがたい奇妙な個体もある。いわゆる雑種だと考えられるものもある。
9. 三谷での①と②の環境差異はわからない。
10. ①の中には、葉が赤紫に変わったものも見られる。成長がはやかったものなのだろうか？
11. 不定芽ができる環境要素を分析する必要がある。金曜班フィールドでは不定芽が多らしい。
(植物ホルモン・サイトカイニンの作用) 以上